



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2016年1月拡大号)

〒144-0054 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



新しい年が始まりました。

皆様と共に推進してまいりました「JP子どもの森づくり運動」も、今年9年目を迎えます。おかげ様で、参加園も昨年末に100園を達成し、毎年、約5000人の園児が参加する大きな活動に育ちました。今年も、これまでの成果を基盤に、さらに活動を展開していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「子森通信」2016年1月号は、新年拡大号として、特別寄稿をお届けします。東京都の参加園「春明保育園」が取り組んでおられる、地域を巻き込んだ園防災の活動を、消防庁防災アドバイザー 鎌田修広氏にご紹介いただきました。

(目次)

1. 新年特別寄稿

タフ・ジャパン 代表 鎌田修広氏

『園防災は「郷土愛」を形にすること ～春明保育園、只今地域貢献に挑戦中！～』

2. 事務局からのお知らせ

子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2016」参加園募集のご案内

●新・どんぐり博士の育苗講座(2016年1月号)

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. 新年特別寄稿

『園防災は「郷土愛」を形にすること ～春明保育園、只今地域貢献に挑戦中！』 (株)タブ・ジャパン 鎌田修広

新年にあたり、(株)タブ・ジャパン 代表 / 消防庁防災アドバイザー 鎌田修広氏の特別寄稿をお送りします。鎌田氏は、現在、活動参加園「春明保育園」(東京)の防災コンサルタントを務めていらっしゃいます。今回は、同園での防災、及び地域貢献活動としての優れた取り組みについてご紹介いただきました。

◆ 私を仲間に入れてくれました！まずはAEDで地域貢献！



豪徳寺駅から1分の所にある春明保育園様々なご縁が繋がり、防災のコンサルティングを担当させていただくことになりました。心より感謝・感謝です。



左の看板は阪神淡路大震災から学んだ私の原点「防災道德教育」です。素敵な笑顔の園長・理事長どうぞ宜しくお願い致します。



地域での設置が少ないため、新年度早々に園でAEDをご購入。講義を受けた保育士の方々が看護師の先生を中心に保護者へ指導中(スゴイ！)

◆ 日頃の防災意識がすごいんです！



災害時の水は重要、園庭に井戸を掘り地域のために行政と協定を締結しています。また、日頃の保育ではかごに入れた防災頭巾やヘルメットを常に携帯し、子どもたちの安全・安心を見える形にしています。



保育室の観音扉は全てロックし、保護者等が見ても意識の高さがすぐにわかります。火災報知機の使い方も担当を決めず、全員が使えるよう備えております。番外ですが屋上庭園を作り、トマトの栽培も本格的！

◆ 減災コミュニティの奇跡が起きました！

災害が発生する度に「日頃の人間関係が大切」という結末に至ります。「近助や共助」と言われる部分であり、わかってはいても中々行動できず、見える形になるまでには相当の勇気と努力が必要です。それがなんと、私の見ている前で、減災コミュニティ最高峰である「鍵預け」が実現してしまったのです。



2014.11長野県神城断層地震（震度5強～6弱）では濃密な人間関係が功を奏し全壊建物33棟、半壊建物60棟にもかかわらず、「死者ゼロ」であった。

- ① 落ち着いて身の安全を確保「自助」
- ② 向こう三軒両隣へ安否確認「近助」
- ③ 倒壊家屋等から人命救助「共助」

日頃の顔の見える人間関係が「白馬の奇跡」を生んだ！これを間近で見れるとは・・・



自治会主催防災訓練に園が参加、地域に愛されている様子が伺えます。子どもたちは終始落ち着いており、日頃の積み重ねの賜物です。



その後現場で奇跡が起きました！自治会長と園長・理事長が立話で「お互いの防災倉庫の鍵を預け、災害時は協力しましょう！」「豪徳寺の奇跡」の瞬間です♥



自治会の防災倉庫からわずか15mに園内の防災倉庫があるのです。園ではプロパンガスを燃料とした発電機やコンロ、照明器具まで完備！お互いに心強いことですね。

◆ 火災の不安は4段階の消火方法で対応!

行政が作成しているハザードマップ等では、地域の危険度（地震により全壊する建物の割合）は5段階で4です。一方、火災延焼危険、消防水利の有効性、消火活動困難度、避難の安全性等は5段階で3です。総合的に見て特別危険な地域ではありませんが、二次災害となる「火災」が園が抱える不安要素の1つでもあることが判明。法令に基づく「消火器」だけでは限界がありますので、一気に4段階の諦めない消火方法に挑戦中!



<第1段階>

建物の構造上、止むを得ませんが、給食室の直上である2階に0歳児の保育室がありますので、まずは火元が小さいうちにいち早く消火スプレーで対応します!



<第2段階>

さらに使い方が簡単な「投てき水パック」(写真は傘袋と比較中) 井戸水から予め水を注いで保管、本番は火元に数多く投げるだけ!



<第3段階>

園は人数がいるので、この間に「消火器」を集め、炎といざ勝負!

<第4段階>

最後は消火栓から直接繋いで消火するスタンドパイプの訓練中!



これで園舎や地域を守ることができます。私達は最後まで諦めません。

◆ 園のスゴイところは何事も主体的に楽しみながら行っていること！

園の防災マニュアルには、BCPに基づく初動対応と大災害対応を明記、その際、災害時の判断と行動指針として
① 「守る」 ⇒ 子ども・職員の生命
② 「逃げる」 ⇒ 安全な方法で、安全な場所へ
③ 「判断する」⇒ その場でできることを着実に実行する
この3つを防災班中心に毎月の訓練でチャレンジ、後日の検討会を実に真剣に実に楽しそうに行っているんです。

例えば…①の「守る」、各保育室内の安全スペースは一体何処なのか？

天井・照明・窓ガラス・壁面等の非構造部材の特性を学び、皆で考え、さらにチームごとにプレゼンしたマークを検討、そして全員納得した上で貼付け作業を行う流れが実にスムーズで本当に楽しそうだったんです。



天井にも貼ったら？
そうだね！

床はブックカバーで
貼ってみよう！

どれがわかり
やすいかな？



私たちは保育を通じて豪徳寺に郷土愛を感じ、見える形で地域貢献に挑戦中！！
今後も防災等を通じた地域交流を進め、さらに開かれた園を目指していきたいと考えております。将来的には地域や保護者を巻き込んだ宿泊（帰宅困難）体験等も検討中！今後も益々目が離せません。
お近くにお越しの際は是非気軽にお立ち寄りください。一同お待ちしております。
春明保育園 職員一同



2. 事務局からのお知らせ

子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2016」参加園募集のご案内 (⇒募集締め切り迫る！)

子どもの森づくり運動の参加園が集う「全国集会&研修会2016」のご案内です。

今年は、2月23日(火)、24日(水)三重県鈴鹿市での開催となります。

テーマは主に三つです。

- ①これから持続可能な未来を生きていかねばならない幼少期・幼児期の子どもたちに“環境心”を育む「環境学習」について
- ②大きな災害が近い未来に予想される今日、『本当に子どもたちを助ける防災、危機管理』について
- ③さらに、今、社会的な要請が高まる公益法人の地域貢献活動の現状と方法についても学び、協議したいと思います。

研修会の講師として、下記の方々にご出講いただきます。

講師プロフィール			
			
林原博光氏 NPO法人 C・C・C 富良野自然塾 専務理事 副塾長 富良野自然塾において、 地球レベルで環境問題を 考える様々なプログラムを開発、 全国各地に展開中。	津村義彦氏 筑波大学 生命環境系教授 森林植物の系統地理的 研究、分子生態学的研究、 地域適応的遺伝子の探索、 スギなどの有用樹木の分子 育種学的研究を行っている。	昆直人氏 岩手県山田町震災語り部 新生やまだ商店街 協同組合代表 東日本大震災を風化させないよう、 自然災害の脅威、家族との繋がり、 の大切さ等、自らの体験を後世に 語り継ぐ活動を続けている。	鎌田修広氏 (株)タフ・ジャパン 代表 消防庁防災アドバイザー 全国の消防学校、自治体、 小中、幼稚園、保育園へ 出張し、実技を交えた 参加型講演を行っている。 http://www.tough-japan.com

皆さん、事務局が自信を持ってご紹介させていただき、第一線で活躍されておられる方々ばかりです。

全国の参加園が集い、情報交換や交流を行っていただく場でもあります。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

* 詳細、及び参加申し込みについては、同封の参加者募集チラシをご参照下さい。

- 新・どんぐり博士の育苗講座 (2016年1月号) ~“どんぐり”の植えつけ 1 (保存版) ~
 暖冬から一転寒い1月後半となりました。本年もよろしくお祈りします。今回はどんぐりの植え付けについてです。どんぐり育苗での、いの一の取り組みについて、新年を迎えたこの時期におさらいします。保存版として、毎年の活動にお役立て下さい。どんぐり博士：河内和男 (「子森ネット」森林インストラクター)



土は、園芸用培養土を用いたとして説明します。取り扱いが楽ですし、水はけなども良い具合に調整されています。手ごろな価格の培養土を準備して使用して下さい。

① プランターに植え付ける場合

25Lから30L程度のプランターに10個程度植え付けるのがちょうど良いでしょう。最大は2列にして20個までは植え付け可能です。プランターの底にネットがある場合は培養土を入れるだけで良いです。そうで無い場合は、鉢底石として赤玉土を底が見えなくなるまで入れてから、培養土を入れます。土が次第に縮んだり流れ出たりしますので少し多めに入れて下さい。

② ポットに植え付ける場合 (黒くて柔らかいポリポット)

苗は最終的にポット苗にします。つまり、プランターに植え付けた場合、ポットへの植え替えが必要です。ですが、最初からポットへ植え付ければ植え替えが不要となります。その植え付けるポットですが、育苗用用の黒くて柔らかいポリポットを使用して下さい。

大きさは、土が多いほど苗は育ちやすいので、できるだけ大きいものが理想です。ただ限度がありますので、直径15cm~18cmのものが良いでしょう。プランターからの植え替えでも同じです。この大きさのポリポットが手に入らない場合は、事務局に相談して下さい。

実費にてご用意いたします。プランターやポットに土が入ったら、いよいよどんぐりの植え付けです。

それについては次号で記します。お楽しみにお待ち下さい。